

Aomori Art Stroller

あおもりアート散歩人



Aomori Contemporary Art Centre / 国際芸術センター青森

アートを散歩する。

このフリーペーパーの名前にもなっている stroller という言葉。
動詞の Stroll には、「散歩する」「放浪する」という意味があります。
散歩の意味をもつ英熟語として、もうひとつ「take a walk」がありますが、
習慣としての散歩ではなくて、新しいところを訪れたときに
「ちょっとぶらつく」、stroll はそんなイメージを持つ単語です。
第1号の特集は、ぷらりと気負いせずにアートを楽しむヒントをお教えます。



Aomori Art Stroller

2008/10-12
001

特集＝アートの周辺

忙しい日常の中で見過ごしてしまう風景も、散歩をしていると、新しい何かを発見したりします。また、新しい場所を訪れると、いつもは気に留めないものも、何か気になる存在になったりします。散歩には人間の心にふっと新しい空気をいれる作用があるようです。

「アートを散歩する」とは、気負いなくアートと触れあい、楽しむことにより、我々の中に新しい可能性を生み出す行動だと考えています。

今回は、あおもりのアートの周辺を散歩してみましょう。

■縄文文化が生み出す「価値」

青森には、日本最大級の縄文集落跡が発掘された三内丸山遺跡をはじめ、多くの縄文遺跡群が見られます。三内丸山遺跡に隣接し、その遺跡の発掘現場から着想を得て設計された青森県立美術館は、発掘現場のトレンチ（壕）のように、地面が幾何学的に切り込まれ、その上から白く塗装された煉瓦の量塊が覆いかぶせることで、展示空間を生み出すという、縄文を現代的に表現した作品ともいえます。

1万数千年も昔から、およそ1万年の間、この場所で培われた縄文文化は、しばしば「自由奔放」、「エネルギーの解放」、「精神の高ぶり」という形容詞で表現されますが、青森県立美術館に所蔵される、棟方志功をはじめとした青森のアーティストの作品には、異種独特な造形感覚や美意識、まさに「縄文」が根底にあることを感じさせられます。このことは、青森の「縄文文化」がほかのどこにもない「価値」を生み出しているということを表現しているといえます。我々はこのようなすばらしい価値があおもりに存在することを喜ぶとともに、悠久の時をこえ、縄文時代に生きた人々に深く敬意を表しながら鑑賞する…、これもアートの楽しみ方のひとつなのではないでしょうか。



青森県立美術館前にある「縄文の谷」、ここを抜けると三内丸山遺跡が見えてきます。

■アートの森

国際芸術センター青森（ACAC）は、国道103号線を八甲田・十和田湖方面へ向う、丘陵地「雲谷（もや）」の裾野にあります。メイン・エントランスから四季のアーケードを通り赤松の林を通り抜けると、水辺を湛えた円形の建物が現われます。ACACでは、国内外の芸術家が滞在しながら作品制作を行う「アーティスト・イン・レジデンスプログラム」による展覧会やワークショップを通年で開催しています。また、建物の周囲にはユニークな野外彫刻作品が点在。森の散策とともに、個性豊かな作品に出会うことができます。木々のざわめきや鳥のさえずりに耳を澄まし、新鮮な空気を胸いっぱい吸い込むと、まるで自分自身が自然に溶け込んでいくかのよう。空の色、流れる雲も、いつもと違う風景に見えてきます。

鑑賞するアートから参加するアートまで。幅広い体験ができる「アートの森」で、芸術の秋を満喫！



辻けい『青森一円』
森の中に現われた、紅色に染まった糸に囲まれた円形の空間。見上げると、360度に切り取られた空が広がる。



青木野枝『雲谷Ⅰ』
空から柔らかかに落ちてくる金色の光の輪を表現した作品。

■「原っぱ」

——「原っぱ」において、自由に遊び、行動し、思いっきりアートの世界に浸りたい。弘前市吉野町の煉瓦倉庫は、私たちが思い描く「原っぱ」の原風景であり、砦です。

02年、市民ボランティアで開催した「奈良美智展弘前」のメンバーを母体に設立されたharappaは12月で法人設立5周年を迎えます。この5年間で、数々の出会いと再会を繰り返し、さまざまな視点からアートを見つめてきました。

記憶に新しい06年の奈良美智+graf「A to Z」展の成功を記念して制作した『A to Z Memorial Dog』は、誕生して1年。奈良美智制作のメモリアルドッグは、「A to Z」の記憶がいつまでもみなさんのの心の中に残り、長く語り継いでほしいという願いを込めて設置し、弘前市に寄贈しました。

街には、「歩く」楽しさが欲しい。

無邪気で無防備なメモリアルドッグが街並みに新たな表情を与えてくれました。harappaは、中心市街地にギャラリーとショップを併設。文化と歴史が息づく街の何気ない日常の中で、たくさんの驚きと発見を楽しみ、人とアートが溶け込むことを体験できるのもスローな散歩ならではかもしれません。



『A to Z Memorial Dog』と弘前市内を望む。

■棟方志功記念館：棟方の芸業の世界へ

青森が生んだ世界に誇る板画家・棟方志功の記念館。板画家として知られる棟方ですが、作品は板画だけにはとどまらず、油絵、倭画、書などがあり、棟方は自身の多彩な芸術活動を総称して「芸業」と呼び表しました。記念館では、館蔵品を中心にテーマを決めて年4回の展示替えを行っています。

現在は秋の展示「棟方志功と相馬貞三ー民藝を通して」を開催中。棟方志功と相馬貞三、郷里を同じくする二人の民藝を通じての深いかかわりの中から生まれた作品を紹介します。青森県立美術館常設展「×Aプロジェクト」で開催中の「相馬貞三と青森県の民芸」と合わせてご覧いただくと、より理解が深まるでしょう。

棟方志功『尚武頌A』板画／昭和48年



■空間実験室：記憶に残る風景

記憶に残る風景って何だろう。散歩の途中、通勤・通学のいつもの角ですれ違う野良猫、新しく見つけたカフェ。休日に、わくわくしながら出かけた映画館。きっと誰にでもある、ささやかで大切な風景。空間実験室は、青森の古くからある商店街の一角にある、ギャラリーとカフェを併設したフリースペースです。ここは、表現をしたい人、ゆっくりお茶を飲みたい人、新しいモノや人に会いたい人が集まる場所。しらんぷりして通り過ぎるだけの人もいます。でも、それは、いつかこの街の、誰かの記憶の風景になるかもしれない。気ままな野良猫が集まる、コーヒーの匂いのする、ほんのりと温かい灯りが見える場所。

空間実験室／外観の様子



■八戸市美術館：ニュートラルでない美術館

市庁舎やホテル、銀行などがたち並び、買い物客でにぎわう市の中心部。買い物ついでのマダム、そして駅をおりたトラベラーがふと看板を目にして「ちょっと寄ってみようかな」と気軽に足を運べる、そんな場所に八戸市美術館があります。

建物はもともと税務署として使われていたものをリノベーションしたものです。新設の美術館にみられるニュートラルな空間「ホワイトキューブ」ではなく、扉や電気設備のスイッチ類が白い壁面上にあって、作品よりもその存在を主張してしまうやっかいな代物といえますが、美術館独特のはりつめた緊張感の中、「なんでここに…？」とふと空気を和ませてくれる存在でもあり、この美術館ならではの空間を見せてくれます。

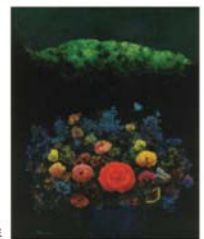
八戸市美術館／展示室内の様子



■鷹山宇一記念美術館：鷹山の原風景、七戸。

鷹山宇一は1908年、七戸町で生まれ旧制青森中学校に入学するまでこの地で育ちました。90年の生涯の大半を東京で過ごした鷹山の作品の多くに、なだらかな山々や緑陰の木立が描かれています。緑深い山里の「ふるさと」がもたらした原風景は、多感な少年の人間形成に大きな影響を与えました。ここでは七戸の風景と鷹山の作品の対比を楽しむことができます。

鷹山宇一『早春賦』キャンバス・油彩／平成2年



Free Column 研究会メンバーによる「なんでもコラム」。創刊号はICANOF高沢さんからのレポートです。

7月24日早朝の激震を祝砲として開幕したICANOF第8企画展「68-72*世界革命展」は、北京五輪閉幕の8月24日、毎年恒例のICANOF代表米内安芸による写真ワークショップでもって盛況裡に閉幕した。あの1968-72年の激震を召喚し、それが現在と地続きの切迫した徴候であることを世界に向けて発信する、真夏の夜のユメにも似た痛快なイメージの祝祭であった。

会場1階は沖縄の写真家比嘉豊光「沖縄闘争」80点と八戸の建築家月舘敏栄「仙台闘争」120点の激突。2階は木村伊兵衛賞・伊奈信男賞の写真家北島敬三「USSR*1991」70点の鬼気迫る展示。3階は伊藤二子の油彩造形10点と米内安芸「TOKYO 月面着陸」写真12点が、金子遊の映像作品「Baghdad*1999」と倉石信乃の映像作品「Tsukai*45-72」が、美術家平倉圭やICANOFメンバーによる企み深いポスター作品とが、階を隔てて切り結ぶ。

同展併設「全国フォーラム2008」(八戸市「元気な八戸づくり」協働事業)は、7月25-27日の3日間、全国各地からの論客30名に市民県民30名を加えて白熱した討議が重ねられ、「KWANKOバス・クルーズ・ツアー」も好評だった。

「世界革命展」は閉幕したが、そのユメのツツキが11月7-9日、月島で見られることになった。モレキュラーシアター東京公演にアフタートーク(鶴飼哲・スガ秀実・瀬尾育生・稲川方人ほか)が併設され、八戸で持ちこされたトーク主題がさらに展開されるだろう。



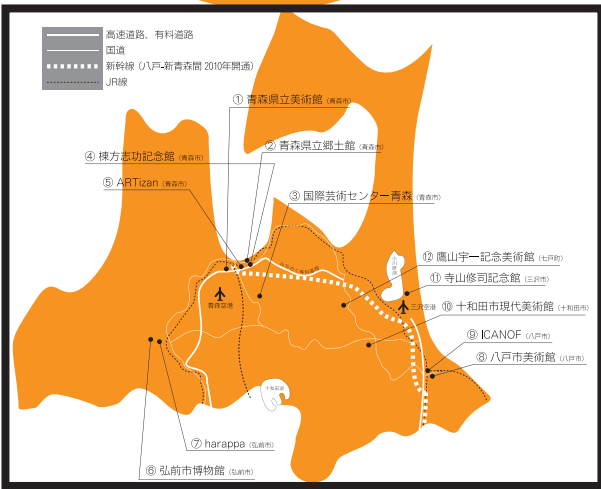
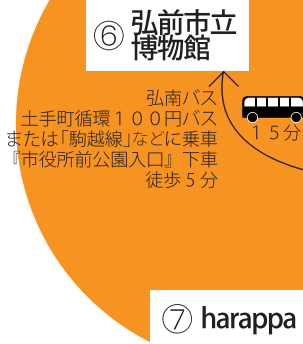
ICANOF第8企画展「68-72*世界革命展」より

| | | | |
|---|---|---|--|
| <p>① 青森県立美術館</p> <p>青森市安田字近野185</p> <p>http://www.aomori-museum.jp 017-783-3000</p> | <p>企画展示「ボックスアート～プラモデルパッケージ原画と戦後の日本文化～」～11月3日(月・祝)</p> <p><アートイン三内丸山遺跡プロジェクト>～12月24日(水)</p> <p><12人のピアニストによるコンサート+α ※各回とも19:00開演></p> <p>10月18日(土) 工藤 里砂子 Sop. 西田 由子「もう一つのピアニスト」/11月15日(土) 内田 智子「晩秋によせて」/12月6日(土) 友田 恭子「モーツァルトの夕べ」</p> <p><定期映画上映会></p> <p>10月11日(土)「ロレーとバイオリン」/11月8日(土)「僕の村は戦場だ」/12月13日(土)「アンドレイ・ルブリョフ」 以上すべて、アントン・レオパルドフスキー監督作品</p> <p><オープンアトリエ(こども向けワークショップ)></p> <p>10月5日(日)10:30-12:30「あおもり犬とともだちになろう」/11月16日(日) 13:00-16:00「大きな絵をかこう」/12月14日(日) 13:00-16:00「素材のふしぎ」</p> <p><創作工房(高校生以上のおとな向けワークショップ)></p> <p>10月4日(土)、11日(土)、18日(土) 各回とも10:00-15:00 ※3回連続プログラム「津軽塗～いろんなものに漆を塗ってみよう」</p> <p><アート入門(毎月1回学芸員が行う、スライドを交えながらのアートのお話)各回とも13:30-14:30></p> <p>10月12日(日)「印象派からキュビズムへ～色彩から読み解く近代絵画～」/11月9日(日)「今和次郎、江口隆哉が見た近代ヨーロッパ」/12月14日(日)「芸術の実験物語～」</p> | <p>常設展示「秋のコレクション展」～12月24日(水)</p> <p><ダン・アレコ青森></p> <p>12月20日(土)・21日(日)</p> <p>12月14日(日)「芸術の実験物語～」</p> | <p>常設展示「秋のコレクション展」～12月24日(水)</p> <p><アートイン三内丸山遺跡プロジェクト>～12月24日(水)</p> <p><ダン・アレコ青森></p> <p>12月20日(土)・21日(日)</p> <p>12月14日(日)「芸術の実験物語～」</p> |
| <p>② 青森県立郷土館</p> <p>青森市本町2丁目8-14</p> <p>http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/culture/kyodokan 017-777-1585</p> | <p>ジュディ・オング 倩玉 木版画の世界 10月11日(土)～11月16日(日)</p> <p>女優・歌手として活躍するジュディ・オングさんには、木版画作家としての顔があります。2005年の日展特選受賞作「紅楼依緑」など、珠玉の約65点を一堂に公開します。</p> | | |
| <p>③ 国際芸術センター青森</p> <p>青森市合子沢字山崎152-6</p> <p>http://www.acac-aomori.jp 017-764-5200</p> | <p>アーティスト・イン・レジデンス2008/秋 月下の森 Luna Forest</p> <p>アーティスト・イン・レジデンス2008 秋の特別展 東島毅 展 HIGASHIJIMA Tsuyoshi 絵 - Picture</p> <p>展覧会期: 11月15日(土)～12月14日(日) ※滞在: 9月24(水)～12月20日(日)</p> <p>【参加アーティスト】 吉賀あさみ YOSHIGA Asami (鳥取県) 吉本直子 YOSHIMOTO Naoko (兵庫県) カン・イングー KANG In-Goo (韓国) シャーロット・マクガワン=グリフィン Charlotte MCGOWAN-GRIFFIN (イギリス)</p> | | |
| <p>④ 棟方志功記念館</p> <p>青森市松原2丁目1-2</p> <p>http://www.lantecweb.net/shikokan 017-777-4567</p> | <p><秋の展示> 棟方志功と相馬貞三～民藝を通して 10月7日(火)～12月24日(水)</p> <p>柳宗悦に見出された棟方志功。柳の思想に共鳴し民藝運動に加わった弘前市出身の相馬貞三(1908～1989)。相馬の生誕100年に寄せて、棟方志功と相馬貞三の民藝を通じた交流について紹介します。</p> <p>11月3日(月) 文化の日は無料開館</p> | | |
| <p>⑤ ARTIZAN 空間実験室</p> <p>青森市古川1丁目19-18</p> <p>http://artizan.fromc.jp/spacelab</p> | <p>空間実験室2008 ～12月3日(水) ※各展示の詳細な展示期間はブログをご覧ください、またはお問い合わせください。</p> <p>アタシたち高校生クリエイターズ/吉町友美「Hasta la vista～アスタ ラビスタまた会う日まで～」/女子美術大学同窓会 絵がみワークショップ/奈良桐人写真展「ウレイラ」/大柳暁+中畑夕紀「teffen werfen」/easy living(葛西康人)「Easy Living works story #4」/妻神剛夫「球体と平面の隣接性」/盛隆吾「木箱」/高坂征子「心拍点」/神幸代「Atelier muguet」-happy time- /高坂征子&ちい「晴れた日にあくび」/長内絵梨子「blue shadow & solid line」/和嶋慶子「夏休み」/升田学・赤猫-akaneko-「赤猫-akaneko-」meets <トスシ>/藤原さち子「幻想は灰色を呈する」/山内栄美「切り取られた風景」/GEDONEUTRAL「EP 1/3g」/吉田真奈美「9019」/サクライミホ・赤猫-akaneko-「赤猫-akaneko-」meets <サクライミホ></p> | | |
| <p>⑥ 弘前市立博物館</p> <p>弘前市下白銀町1-6 弘前公園内</p> <p>http://www.hi-it.net/~hakubutsu/ 0172-35-0700</p> | <p>源氏物語千年 -石山寺の美- ～10月5日(日)</p> <p>彫刻の系譜-三國慶一・恭三父子展- 10月18日(土)～12月21日(月)</p> <p>日展参与を務めた木彫の巨匠、故三國慶一氏と、氏のご子息で二科会評議員を経て独自の境地を拓く三國恭三氏。彫刻家父子二人の歩みを振り返ります。</p> <p>併設「津軽の歴史展」</p> | | |
| <p>⑦ harappa</p> <p>弘前市土手町112</p> <p>http://harappa-h.org 0172-31-0195</p> | <p>AtoZ Memorial Dog 写真展 「わんこがみてきた1年間」 ～10月5日(日) ※吉井酒造焼瓦倉庫にて</p> <p>※harappa galleryにて</p> <p>「わんこがみてきた1年間」受賞展 10月9日(木)～11日(土)</p> <p>「日常じゃあにい」荒井良二の展覧所 10月13日(月)～28日(日)</p> <p>JIRO KAMATA contemporary jewelry exhibition "things of value" 11月1日(土)～11月24日(火)</p> <p>harappa 5周年企画展 「5」 12月6日(土)～16日(火)</p> | | |
| <p>⑧ 八戸市美術館</p> <p>八戸市大字番町10-4</p> <p>http://www.hachinohe.ed.jp/artmuseum 0178-45-8338</p> | <p>現代作家シリーズ 「石橋忠三郎 ガラスアート展」 「下村正二の世界展」 10月10日(金)～26日(日)</p> <p>コレクション展III「花鳥風月の世界」 11月8日(土)～</p> | | |
| <p>⑨ ICANOF</p> <p>八戸市古常泉下14-18</p> <p>http://www.hi-net.ne.jp/icanof 0178-45-9247</p> | <p>モレキュラーシアター演劇公演「ILLUMIOLE/ILLUCIOLE」</p> <p>演出・構成・美術:豊島重之/出演:大久保一恵・苔米地真弓・田島千征・四戸由香・秋山容子・高沢利栄</p> <p>11月7日(金) 開場18時30分 会場: TEMPORARY CONTEMPORARY</p> <p>11月8日(土) 開場17時30分 (有楽町線・大江戸線「月島駅」7番出口・倉庫2F)</p> <p>11月9日(日) 開場13時30分 各日: 2,500円(トーク&レセプション含む/要事前申込み)</p> <p>※各日も公演終了後、アフタートークがあります。</p> | | |
| <p>⑩ 十和田市現代美術館</p> <p>十和田市西二番町10-9</p> <p>http://www.city.towada.lg.jp/artstowada 0176-20-1127</p> | <p>常設展示/21名の作家によるパーマネントコレクション=アナ・ラウラ・アラエズ、チェ・ジョンファ、フェデリコ・エレロ、キム・チャンギョム、栗林隆、ジム・ランビー、マイケル・リン、森北伸、ポール・モリソン、ロン・ミュエク、マリル・ノイデッカー・オノ・ヨウコ、ハンス・オブ・デ・ビーク、ボッレ・セートル、ジェニファー・スタインカンブ、スウ・ドーホー、高橋匡太、椿昇、山極満博、山本修路</p> <p>都市の記憶 和田光弘写真展 ～10月19日(日)</p> <p>MOA 美術館 十和田児童作品展 10月25日(土)～26日(日)</p> <p>法人統合記念 北里柴三郎展 11月5日(水)～16日(日)</p> | | |
| <p>⑪ 寺山修司記念館</p> <p>三沢市大字三沢字淋代平116-2955</p> <p>http://shuji-museum.misawasi.com 0176-59-3434</p> | <p>特別企画展「寺山修司とアメリカ」</p> <p>-展示構成-</p> <p>1:少年・寺山修司が会った「アメリカ」</p> <p>2:アメリカ前演劇視察</p> <p>3:「毛皮のマリー」ニューヨーク公演</p> <p>4:アメリカ各地の映画祭で活躍</p> <p>5:「奴婢訓」アメリカを制覇す!</p> | | |
| <p>⑫ 鷹山宇一記念美術館</p> <p>上北郡七戸町字荒熊内67-94</p> <p>http://www1.town.shichinohe.aomori.jp/sightseeing/spot_takayama 0176-62-5858</p> | <p>-ヤマタネ 所蔵作品による日本画名品展 ～10月13日(日)</p> <p>第68回国際写真サロン展 第6回女性写真公募展 10月25日(土)～11月9日(日)</p> <p>第8回鷹山賞児童作品展 第8回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展 キッズ・アートワールド大連2008 11月16日(日)～1月25日(日)</p> | | |

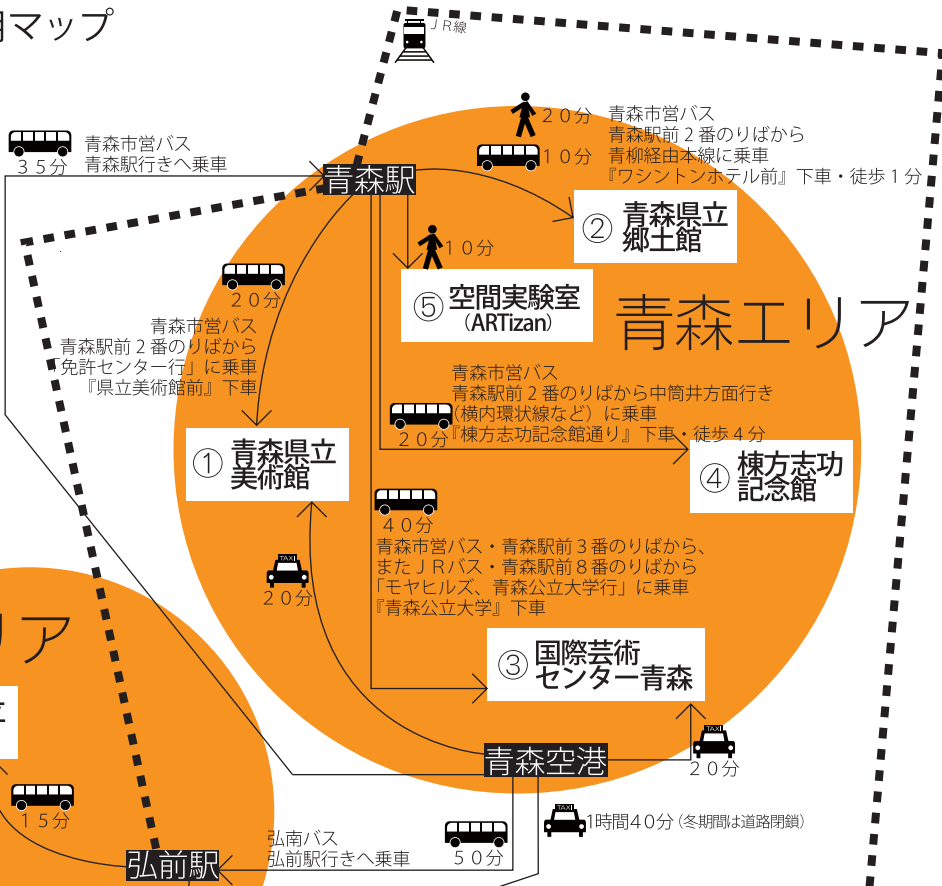


散歩用マップ

弘前エリア



青森エリア



--- おすすめコース vol.1 ---

秋の奥入瀬と建築とアートを楽しむ (2日間コース)

公共交通機関でも移動可能ですが、車(レンタカー)が気ままでおすすめです。

【1日目】

青森駅または青森空港から
↓
「青森県立美術館」
建築：青木淳
デザイン：菊地敦己

↓
昼食：美術館カフェ
カフェの内装と窓から見える八角堂を楽しむ

↓
「国際芸術センター青森」
建築：安藤忠雄

↓
宿泊：十和田湖周辺で
十和田市観光協会
電話：0176-24-3006
http://www.towada-kankou.jp

※青森→十和田の移動は
八甲田山麓越えのルートです。

【2日目】

早朝に奥入瀬渓流散策

↓
「十和田市現代美術館」
建築：西沢立衛

↓
昼食：美術館カフェ
カフェの床もアートです

↓
八戸駅または三沢空港へ

八戸市行きに乗車
『八日町』下車・徒歩3分

↓
みさわ観光バス乗車
20分 『記念館前』下車

※不定期運行のため、
冬季など運行していない
時期もあります。
事前にお問い合わせください。
三沢市観光協会：0176-59-2311

↓
徒歩10分

↓
徒歩5分

↓
徒歩10分

↓
徒歩40分

↓
徒歩30分

↓
徒歩40分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

↓
徒歩15分

キリトリ

上のキリトリ線から切り取って、3個目のスタンプを押した施設にご提出下さい。また提出の際下記「年齢、性別、お住まい」のアンケートにご協力下さい。

年齢 (10代以下、20代、30代、40代、50代、60代、70代、80代以上)

性別 (男性・女性)

お住まい (市町村名)

3つ集めるとプレゼントあり!

アンケート

1

2

3

Stroller Card

この冊子に登場する青森県内アート関連施設を3つめぐってスタンプを集めると、ステキな景品をさしあげます。

団体によっては、展覧会などを行っていない時期もあります。また特別なイベントや出張展などではスタンプがございませんので、ご了承下さい。

スタンプが置いてある場所がわからない場合、各館・各施設の受付などでお声がけ下さい。

スタンプが3つたまったアンケートをご記入の上、(性別・年代・お住まい) その「3つ目のスタンプ」を押した施設」の受付にお申し出下さい。記念品と交換いたします。

Ambitious

アート関係者によるリレー式寄稿。青森のアートの周辺への展望、ネットワークプロジェクトに期待することなどをお話いただきます。

近年<アオモリ>はアートの、それも現代アートの上げ潮期のある、とメディアは囃し立てるが、実際のところどうなっているのだろうか。マァ、少しばかり潮位が上がり波立っていてもいるのでむやみに否定はしないが、それでも東京と800キロメートルのアートの距離は遠い。現実の生産地は相変わらず下り列車の中なのだ。メディアの華麗さに比べて少し気を失いかけているのも事実なのだ。

そこで『青森県』は考え、「アオモリ犬」は吠える。吠えるだけでは、考えるだけでは始まらない。12の美術館、博物館、活動体が集まって、ナントカセニヤアと吠え考えた。考えや吠え方をかたちにする、それをネットワークという。早い話が互いに相互訪問を可能にしたという事で画期的である。1年に1回だけ、ひとつの館に集まって、この町の未来、この都市の未来、この大地の未来を考える展覧会を開いたら、もっと波は立ちににぎやかになると思うのだが、どうだろうか。

浜田剛爾（国際芸術センター青森館長、美術家）

編集後記～散歩とアートとストレッチのことなどについて～

とあるアート作品をみて…この作品は本で言うとMさんの〇〇っていう作品っぽい雰囲気があるかも→Mさんの作品といえばパスタをゆでるシーンがちょくちょくでてくるな→おいしいポロネーゼが食べたい→この前ワイドショーでみたあのお店に行ってみようかな→そういえばそこに行く途中に最近さっぱりした服屋さんができたから、のぞきつつ→そのためには、おいしく食べたいから朝ごはんを少しにしとこう→ということは朝ごはんつくらなくてよいから時間がちょっとあるから洗濯をして干してからでも出かけられる→洗濯といえば洗濯ばさみを買いたくない→Nさんの洗濯ばさみを使った作品があったけど、あれはあんまり好きじゃなかった→でもあの人のおドロイングはすごく好きで特に紫と白の組み合わせがステキだ！→あの絵の小さいのが部屋にあったらかなりよい→もし手に入ったら居間の左側の壁に架けたい→とすると隅っこの本棚がちょっとじゃまだから模様がえかしら…続く。

日々の暮らしを楽しむ（≒アートを散歩する）にはさまざまな方法がありますが、一見ジャンルが違って感じられるものごとを「同列にとらえる」ことの楽しさを覚えて実践しましょう。「なんでもないようなことがあぁ～/幸せだったと思おう～」というヒットソングのフレーズも、聴きかたによってはなぜかふと悪くない場合もあります。

アートを日常に取り込み各人が消化し判断して楽しめること、またそのような土壌と情報と人を増やしてゆくことが私たちの仕事であり、この研究会を続けていく意味です。散歩もアートもデザインも数学も料理も読書もお出かけも長電話もストレッチもゴミの分別も、同じところに向かっているのです。

<あおもり芸術振興ネットワークプロジェクト研究会>

暮らしの中で気軽にアートに親しめる環境づくりとともに、地域の芸術拠点の活性化を図るため、県内の美術館、博物館、アートNPO等が相互に連携して地域の芸術振興に取り組み、施策（プロジェクト）を研究するとともに、パイロット的に事業展開していくものとして2008年3月に発足しました。

| | | | |
|-----------|------------|---------------|-----------|
| -現在の参加団体- | 青森県立美術館 | ARTizan/空間実験室 | ICANOF |
| | 青森県立郷土館 | 弘前市立博物館 | 十和田市現代美術館 |
| | 国際芸術センター青森 | NPO法人 harappa | 寺山修司記念館 |
| | 棟方志功記念館 | 八戸市美術館 | 鷹山宇一記念美術館 |



-『Aomori Art Stroller』ロゴマークについて-

001号発行に合わせてロゴマークをつくりました。

散歩の「S」、Strollerの「S」

また散歩と言えば歩くための「道」、くねくねしている「道」、みんなが目標に向かってすすんでゆく「道」…遠くて近いような、その先のほうへ行きたくなるシンボルとして、このマークをかわいがってあげてください。

『Aomori Art Stroller/あおもりアート散歩人（サンボビト）』は同研究会が作成するフリーペーパー。各アートスペースのプログラムを相互に結びつけ、情報発信することで、アートの楽しさを伝えていくとともに、新しい楽しみ方を提案していく「コミュニケーションの場」となっていくことを目指しています。